

北地域後援会は我孫子1～4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア

しらかば北

発行責任者
井上文夫

テッセン



参院選の比例区躍進と 白石ちよさんの勝利を



5月17日、参院選の必勝をめざして、我孫子市の党と後援会の決起集会が開かれました。会場いっぱい80名を超える人々が参加し、熱気に包まれました。

▼消費税を一律5%削減。財源は大企業と富裕層へのゆき過ぎた優遇をたす。

先ず小倉千葉県共産委員長が報告しました。「今度の参院選は共産党が伸びるチャンスが大いにある。しかしそのチャンスを生かす運動にまだなっていない。小倉委員長この言葉が心に残りました。

共産党がこれまで主張してきた「消費税減税」が大きな焦点になってきました。一律5%の減税を行い、その財源として年間11兆円にのぼる大企業減税や富裕層への優遇税制をただして恒久的な財源をつくる。財政危機をもたらず国債には頼らないという方針は日本共産党だけのものです。

もう一つ、トランプ政権は各国との貿易協定を一方的に破り捨て、関税で脅して自国の要求を通そうとしています。この横暴勝手な振

る舞いに、アメリカいいなりでは危ないと日本国民は気づいたのではないのでしょうか。朝日新聞の世論調査では、①日本外交は米国の意向にどう対応すべきかとの間に、68%が「なるべく自立した方がいい」。②いざという場合、米国は本気で日本を守ってくれるかとの間に77%が「そうは思わない」と回答しました。「消費税減税」や「アメリカ一辺倒への批判」など、共産党が主張してきたことが大きな焦点になっていきます。しかしその有利な状況を生かす取り組みが立ち遅れています。是非とも総決起をして欲しいと小倉委員長は訴えました。

▼元気ではつらつ白石ちよさん
続いて千葉県選挙区で立候補する白石ちよさんが、必勝の決意表明をしました。

白石ちよさんは、千葉県をくまなく回ってどこでも「生活が大変」という声が圧倒的で、一律5%の減税で「二世帯当たり12万円」の効果があること、そして賃金の引き上げ、「マクロスライド制廃止」で年金の引き上げ実現のために頑張りますと訴えました。

最後に野村貞夫市委員長が「都議選・参院選での共産党の躍進のために、みんなで力を合わせて頑張りますよ！」と閉会の挨拶をしました。

(井)

日本共産党はいま、一人ひとりの暮らしの不安やお困りごとの解消のために、全国でアンケートを実施中です。我孫子市北地域支部に寄せられたアンケートの特徴は次のとおりです。

暮らしの実感で

は、97%の方が「暮らしに不安」と答え、そのうち「ゆとりもない」方が41%です。



「物価高、米、野菜が高い」「諸物価が値上がり。健康を維持していくのが大変」「買い物に行くたび物価が上がっている」「高齢化とともに、目減りする年金や物価高に先行き不安である」「日々の日常が不安、お金のことが不安」「物価や公共料金がどんどん上がっていくので、これから先がどうなっていくのか、とても不安」など、とくに

要求アンケート

不安を感じている事柄は「医療・介護・年金」76%です。次いで「公共交通」31%、「住まい」17%（複数回答）です。



「要介護5の義母がおり、夫も難病で入院しているため、この先、必要な介護や医療が受けられるのか不安」「借家なので、年金暮らしに余裕がない。医療費も高くて大変。将来、介護も必要になることを考えると不安」「住み慣れた地域で暮らししていきたい。自立していくためのサポートが充分受け

られるか不安、アビバスが昼の時間帯に、もう一本増える助かる」「タクシーを利用できない。呼んでも近場では来てくれない。2回分メーターを上げてから乗せてもらった」「老後の買い物等の交通手段に不安を感じている」。

政治の課題で最もよく感じていることは、

「税金の集め方・使い方」62%です。次いで、「食料自給率」「核兵器廃絶」59%、「社会保障」「原発・エネルギー」「沖縄・基地問題」55%、「企業・団体献金」48%（複数回答）などです。



「税金を軍事費に使うのではなく、国民が今、安心して生きていけるように、暮らし、社会保障、教育、医療に使ってほしい」「安定した老後を過ごせるような社会保障の充実、年金・医療や介護にもっと、国が補助すべきだと思う。食料品の消費税をやめてほしい」「誰のために政治があるのか、アメリカのためなのか」「沖縄を始め、アメリカの属国であるような現状」「政治家でなく政治屋ではないか？金だけの」。

日本共産党は、暮らしの不安の解消のために、消費税を5%になどの「緊急提案」を掲げ、都議選・参院選勝利めざして全力をあげています。

支部もがんばります。ひきつづき、「要求アンケート」へのご協力をお願いします。

(岩切)

花火

人類の進化に関する研究として、霊長類ゴリラの行動や生態をアフリカで4年間研究した人がいる。日本で生まれたという日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長を歴任し、前京都大学総長でゴリラ研究の第一人者と言われる山際寿一である。興味があつてその著書「ゴリラと学ぶ」を読んだ▼ゴリラの社会には勝ち負けの概念はない。平和的な性質は、人間よりも優れていると感じる。ゴリラは仲直りする時、対面してじつと顔を突きあわせて「覗き込み行動」をとり解決する。しばらく見つめ合つて、ゴリラ同士は気が済んだように自然に離れていく。▼この行動は、私には無言の話し合いによる平和的解決に思えてならない。人間社会はこのように平和的な話し合いによる問題解決が出来ないものか▼日本人は議論が苦手と言われる。反対意見を言うこと否定されたように「和を乱す」となる。互いに他者の批判も意をつくし合意点を見出す対話にしたいものである。▼話し合いによる平和外交と言う。意見の不一致を認めつつ合意する。ASEAN（東南アジア諸国連合）には10カ国が参加し、年間1500回もの会合をもち、経済・政治・宗教・民族など多様性ある国同士話し合いが持たれているという。（二部赤旗・メディア記事参照）（江）

第4回

「我孫子市議と語る
つどい」に参加して

5月31日、あびこ市民プラザ・ホールで第4回「我孫子市議と語るつどい」が開かれ、雨にもかかわらず51人が参加しました。今回のテーマは「我孫子市の財政について意見交換」でした。最初にこれまでも問題として取り組んできた「手賀沼新田観光施設誘導の状況報告」が主催者「市民の声」の小林さんがつくったデータをもとに現状報告がありました。

今回、この件についての討議は行わず、この問題を中心に取り組んできた「手賀沼を生かす街づくりを考える」会の新保さんから、事業者による説明会などに引き続き強い関心をもって取り組んでいきたい旨の発言がありました。

続いてメインテーマの我孫子市の財政問題について、小林さんが苦心してつくられた資料スライド「我孫子市の財政を知ろう」（配布資料）をもとに、一般会計の現状について30分ほど丁寧な解説が行われました。

まず地方財政についての基礎的知識の説明をもとに、歳入・歳出の内訳、経常経費と政策的経費の違いなどについても丁寧な解説がありました。それから2025年度の一般会計について、『広報 あびこ』（4月1日版）に掲載されている数値を紹介して今年度の一般会計予算493億9000万円の歳入と歳出について解説がありました。

さらに2009年度からの歳入・歳出の推移、市税などの財源の種類と比率、自主財源と依存財源の推移を示し、市財政を考えるうえでの重要なキーワードとなる、財政力指数、経常収支比率などの解説もありました。

今後の我孫子市を考えるうえで重要な、そして近隣市と比較した75歳以上と14歳以下の年齢構成などのデータ紹介もありました。

最後に小林さんは、「我孫子市の財政をどう考えていくか？」、歳入減の要因として①人口減少、②高齢化・少子化、歳出増の要因として①物価高、②インフラ設備の老朽化、を指摘しました。

紹介され、解説した資料はそれぞれ適切で、市財政について考えるいい勉強会になりました。

市議さんが5人参加しました。岩井、内田、柴田、深井、船橋さんです。

「語るつどい」とあるように、市議さんに「聞く」会ではないところにこの日の集会の特徴がありました。座席も市議さんが前に並んで座るのではなく、参加者と一緒に並んで座り、発言する、という形式でした。工夫されたやり方だと思いました。

今回取り上げた市の財政問題をはじめ、我孫子市が抱える問題、課題について市議さんを交えたこうした形式の「つどい」がますます重要になると痛感しました。（竹内）

「我孫子市の教育をよくする会」発足！

この会は、将来を担う子どもたちのために、我孫子市の教育における諸問題について考え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していかうという趣旨で発足した。

総会には28人が集まり、元教員、不登校児童の祖母、給食無償化の運動を進めてきた方、スクールソーシャルワーカーなど9人から様々な発言があった。

（新）



中央は報告する 船橋議員

しらかば北 市政報告会と
富山さんの「世界のワイルドフラワー」スライド上映会

5月18日、北近隣センターつくし野館で「市政報告会」と富山稔さんによる「世界の野生の花」のスライド上映会が行われました。「市政報告会」では船橋議員が3月議会で質問した三つの問題、①上下水道管の老朽化対策、現状では年間1億円に相当する漏水があること、②家屋の解体の際に発生するおそれのあるアスベスト対策、そして③原水爆禁止平和行進への市長の参加要請など平和問題についての質問内容を報告しました。

専門的知識・知見を踏まえて具体的な提案を含めた船橋議員らしい質問内容が明らかにされました。

続いて北支部を代表して岩切さんより、共産党が全国で行っている「暮らしのアンケート」について、北地域でのアンケート集計にもとづいた特徴を報告しました（1面の記事参照）。

参加者からの暮らしにかかわる議論として、集中的に話し合われたのは介護問題でした。介護にかかわる費用など具体例が語られ、介護問題の深刻さ、国や自治体への要望などが話し合われました。さらにアピバスの料金、運行時間など、北地域における公共交通問題での切実な問題も話し合われました。

「市政報告会」後、富山さんの「行ってびっくり、見てびっくり、世界の花の不思議」と題する、ご自身が撮影された200枚の貴重な花、植物のスライド写真を楽しみました。（竹）

富山 稔
世界のワイルドフラワー

3

メコノシプス・シェリフィイ
(*Meconopsis sherriffii*)6月 ブータン・北部
標高 5,950m の地で撮影